

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2023年7月10日
作成 高齢者支援センター	町田第2
作成者	小林真人

1.開催日時	2023年6月29日	(木)	13:30	～	15:00
2.会場	藤の台団地北集会所				
3.主催センター	町田2				
4.参加人数	29人				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 4人		<input type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 8人 (うち、医師 2人)		<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 2人		
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人		<input type="checkbox"/> 老人会 人		<input checked="" type="checkbox"/> 住民 12人
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会 人		<input type="checkbox"/> 警察 人		<input checked="" type="checkbox"/> 行政 2人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (UR都市機構住宅アドバイザー 1人)				
6.開催テーマ	わたしの人生会議～救命救急とACP会議について～				
7.地域課題	<p>(1) 課題設定の背景</p> <p>2018年に厚労省が公表したACPIに関する調査では「知らない」と答えた一般国民は75.5%で、「よく知っている」は3.3%だった。そこから5年経過するが町田第2地区、センターに寄せられる総合相談や地域ケア推進会などにおいてもまだまだ市民に浸透していない。在宅療養や終末期介護が必要になったときに自分の意に沿わない「療養介護」に直面したり、家族や知人として考える際に迷いを抱く方が多くいる現状がある。</p> <p>(2) 検討した地域課題</p> <p>市民の在宅療養における自己決定や意思決定支援の考え方を知る機会が少ないため創出する必要がある。</p>				
8.会議の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・現職の訪問診療医から、「救命救急の現状とACP会議」についての講話 ・質疑応答、「延命治療の範囲」と「かかりつけ医の定義」についての意見交換 ・参加者を3グループ(8～9人毎)に分けて、4人の地域住民の輪に職域参加者が3～4人加わりグループワークを実施した。 ・テーマ:自分、家族、隣人が「療養介護」を要した際に不安に思うこと、実体験であった「こうしたほうがよいと思った話」について。 ・専門職等が主にファシリテーター・書記を担いながら、グループワークで出た意見や課題をセンターでまとめた。 				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「ACP」の普及啓発を行政や専門職からより積極的に務める必要がある。例えば、個別の事案に対して早期からACPの説明と会議を設ける取り組むこと。ケア会議や勉強会など市民向けの学習機会を多く開催すること。刊行物の配架など。 ・かかりつけ医や訪問診療・往診医の仕組みについての周知についても同様に取り組んでいく必要がある。 				
10.その他	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した市民の方12名のうち「ACP」を聞いたことがある方は0名だった。参加意欲があり延命不要カードを作られていた方がいても認知がない現状を確認した。 				

医療と介護の連携支援センター 確認日

7月10日